

「美」・・・発見！

図画工作 第6学年

内灘町立大根布小学校・教諭

1 事例の概要

子ども達は元来かいたり、つくったりすることが好きである。

本学級でも好きな教科の第2位は、図画工作科である。しかし、28人中3人は、嫌いではないが、得意ではないという回答を出した。理由は、「絵がうまく描けない」「アイデアが浮かばない」「友達の作品と出来上がりの差がわかるから嫌だ」であった。高学年になると自分の作品の結果や周囲の目が気になり、創作することにためらいを持つようになるのであろう。好きな理由は、「自分の思いを自由に出せる」「つくっていると楽しくなる」「先生や友達に誉められる」「つくったものがいつまでも形として残る」であった。新鮮で楽しい材料や技法に出会ったとき、どのように表現しようかとイメージをふくらませたり構想を練ったりするとき、自分の思いを自分なりの方法でたった一つの新しい作品を仕上げたとき、そしてそれらを友達同士で認め合ったとき等に「楽しかった」という感動が訪れるのではないだろうか。これらの感動を味わわせるには、子ども達の資質や能力が関連的に働くよう工夫しなければならない。

そこで、本題材では、鑑賞能力を高めるために鑑賞活動→表現活動→鑑賞活動と一連化した題材を設定した。「美」・・・発見！と題して、普段何気なく見ているものでも見方や意識の違いでおもしろく美しく見えるものが私達の周りにはたくさんあることを発見し、「美」に手を加えることで新たな「美」を生むことができるという新しい感動を味わわせたいと考え、取り組んだ。

A-1 図画工作科の確かな学力

A-2 学習指導と評価の工夫改善のための視点

2 実践内容

(1) 題材の目標

- ・暮らしの中で新たな「美」を意欲的に発見しようとする。 (造形への関心・意欲・態度)
- ・ウォッチングしてきた「美」をもとに新たな「美」へと構想する。 (発想や構想の能力)
- ・材料や表現方法を工夫して新たな「美」をつくることができる。(創造的な技能)
- ・美しさやよさを感じたり、味わったりすることができる。(鑑賞の能力)

(2) 指導上の視点

- ① 子どものよさを引き出す題材の工夫・・・子ども達の視点を広げるしかけ
- ② 発想を引き出す手だてにおいて・・・参考作品提示、視聴覚機器を効果的に利用
- ③ 技術の手だてにおいて・・・ポイントをおさえた取立て指導
- ④ 鑑賞の場の設定において・・・製作活動中における鑑賞タイムの設定
- ⑤ 評価の工夫において・・・製作(評価)セッション、造形要素の言葉かけ

B-1 指導上の工夫

3 授業の実際

| 次 | 学習活動と児童の意識の流れ | ・支援と★評価 |
|-----|--|---|
| (1) | <p><「美」を発見しにいこう！></p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科室の試験管がおもしろくならんでるね。 ・雨にも負けずウォッチング！ ・これ、おもしろいね。 | <ul style="list-style-type: none"> ・参考作品を見たり、ネーミングをしたり、何をどうするかはつきり自分の課題を持たせて「美」のウォッチングに行くように話す。 ・デジカメの操作等の扱いを指導し、積極的に使うようにする。 |

| | | |
|-----|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・形がおもしろいね。 ・違う物体のようだ。 ・PCで自分の捕ってきた「美」を見よう。 | <p>★進んで「美」の発見をすることができる。 【関・意・態】行動観察、写真</p> |
| 二 | <発見した「美」を発表しよう> | <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターで大きく映し、発見した場所や対象物を説明するようにする。 |
| (1) | <ul style="list-style-type: none"> ・思いがけないものが綺麗だ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・身近材料や描画材を選んで、新たな「美」を自分の手でつくることを話す。 |
| 三 | <ul style="list-style-type: none"> ・見方が変わればこんなにも違うのだ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・透明感のある素材や水引等のマッチしそうな材料を例として紹介しておく。 |
| (2) | <ul style="list-style-type: none"> ・セロハンを使おう。 ・キャンデーの包み紙がマッチしそう。 ・カラーペンで色を変えよう。 ・接着はのりがいいな。 ・水引きをちょっとかけてアクセントに。 | <p>★もとの「美」をもとに、新たな「美」をイメージする。【発想・構想】表情、製作の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元の「美」と比較できるようにOHPシートの上で新たな「美」を再生することとした。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・新しく「美」を再生するのは楽しいな。 | <p>★自分なりの方法や材料を選択し新たな美を工夫して表現する。【創造的な技能】行動観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさをPRさせたい。 <p>★工夫された美しさやおもしろさを再発見している。【鑑賞の能力】鑑賞カード、ふりかえりカード</p> |
| | <見二見二美術館をしよう> | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・もとの「美」と全く違ってしまった。 ・みんなセンスがいいな。 | |

C-1 指導案

C-2 作品例

4 成果と課題

(1) 子どものよさを引き出す題材の工夫

「美」発見！は、鑑賞の能力を培う目的で設定した。デジタルカメラでいつも目にしている事象を新たな視点で見つめることができた。鑑賞会では、「へえ～」「なるほど」と友達や自分の作品に感嘆の声を上げていた。いろいろな角度で見ることで、新たな「美」をみることができたという感想があった。「美」再発見！においてもちょっとした発想や手を加えることで、また新たな「美」ができることに気づいた。子ども達のセンスのよさに感心させられた。

(2) 発想を引き出す手だてにおいて

「すてき！」「いいね！」等言葉かけで心の鍵を解くように、子ども達の心に寄り添う共感的な言葉を心がけた。「美」再発見！でなかなかアイデアが浮かばない子どもには、その中で（「美」発見！）お話をつくってみることを話した。「そうか。」と、うれしそうな反応がかえってきた。

(3) 技術の手だてにおいて

評価セッション等でもポイントをおさえることができ定着することができた。

(4) 鑑賞の場の設定において

賞賛されたり、自分の作品を参考にされたりすることにより、自信がついていったようだ。また、自分の作品にもそのよさを取り入れることが出来たり、さらなるイメージの広がりへのヒントとなった。新たな見方、感じ方を学ぶ場として大切だと考える。

(5) 評価の工夫において

製作意欲が駆りたてられるとともに、自信につながっていったようである。題材を通して共に悩んだり、賞賛し合ったりなど共感する場を意識的に設定してきた。また、互いに助け合いながら製作している様子や真摯に題材に向き合っている姿をみんなに紹介していった。教師は、一人ひとりを暖かい目で見ることや、作品のいいところや学習態度の素敵なところを適時（即時）に認めることが大切であると考えた。ふりかえりカードやビデオ、デジタルカメラ等を評価の方法として取り入れたことで、より多面的、客観的な評価ができ、さらなる指導へと繋がった。

D-1 振り返りカード